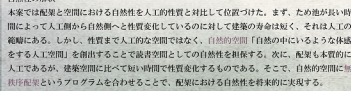
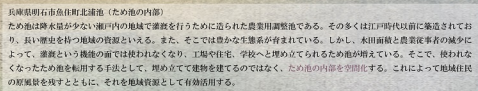


本と出会う。読書することによって得られる知識。それは人々の不可分の配分。自然とは空間ではなく、自然的で不可分の配分。自然な空間をつつものではない。近代以降、建築は机席によって自然から隔離された。空間においてそうして空間を求めた一方で、読書家は読解された。そこで、それら両者の重要な機能として配分と空間に「自然性」を求める。しかし、それは人々とは、自然とは何か。本書はそれを原風景「たみだ」から解き、水源という植物を手掛かりに他と中間を建築化することによって従来の新しい配分-空間をもつ例案である。

本と出会う。読書することによって得られる知識。それは人々の不可分の配分。自然とは空間ではなく、自然的で不可分の配分。自然な空間をつくるものではない。近代以降、建築は机から立ち上がり、物質的な空間が形成されてきた。空間において、もしくは空間を求めらるる一方、読書性という性質は解離されてきた。そこで、それら両者の不可分の機能として、配分と空間に「自然性」を求める。しかし、それは人々とは、自然とは何か。配分は、それを原風景「たみだ」から解き、水源という植物を手掛かりに地中空間を建築化することによって配分と空間をもつ両側性である。



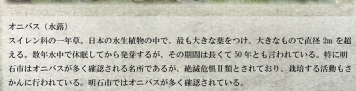
「ため池を切り取り建築化することで生まれる自然的空間によって、新しい図書館を提案する。」

全体の中で各領域が不質にもつながっている自然。
 そこで、思いがけない本と出会い、居心地のいい場所を掛けて読書をする。

この図書館では本人も合理的・人道的に並ぶ必要はなく
 大空間の中で静の読書空間が自然発生する。

そのような偶発性をはらむ不均質な配架・錯雑な空間をつくるため
つまり図書館に自然性をもたらすため
人工と自然を超えた存在であるため池に注用する。

手法として、ため池に残るオニバスの下の空間を建築化し、配架に自由度を与える。
これにより「人工の不均衡（自然的空間）」・「人工の偶発性（無秩序配架）」を生む。



ため池空間の建築化
オニバスの下のような自然的空間を生むために、人工的な形を出発点として直方体をため池空間に挿入し、そこに自然を取り入れる操作2、3、4、を行う。

その際、一見不規則なように見えて規則性があるという自然性を表現するために、フィボナッチ数値や力学学的観点を利用する。



1. 邸
川原の敷地と河川に水田の土地にわたって、農家町で
あるのを考慮して、そして、もともと河川に架か
るフィボナッチ数値の幅の敷地をこのように配置す
る。

2. 柱
川原に面する芝生の奥の奥から植えた材
を軸として設計する。芝生という点に注意し、上
層と下層の点に注意し、図1に示すように設計す
る。

3. 天窓と3層スラブ
奥の奥に面する芝生の奥の奥から植えた材を軸と
して設計する。上層と下層の点に注意し、図1に
示すように設計する。

4. 段差
川原と芝生にわたって、後者の段差の地形にわた
って、その地形に合わせて自然な点に設計するこ
とによって設計される。その点に注意して、その

